

あの日を忘れない

～阪神・淡路大震災から31年～

1月17日(土)

2026年1月17日…「阪神淡路大震災」から31年目を迎えました。震災当時はみんなまだ生まれていません。しかし、あの日から今日まで歩んできた「復興の歴史」…私たちはしっかりと勉強しておく必要があるのではないか。再び同じような「被害」に合わないために…多くの人に「命の大切さ」を伝えるために…震災について学んだことを後世に語り継いでいくことは私たちの使命です。『震災に対する備え』と『生きること(命)の大切さ』を、今後多くの人に伝えていけるよう、この機会に震災について一度じっくりと考えてみましょう。災害は「いつ」「どこで」「どのように」発生するかわかりません。私たち一人ひとりが普段から「避難場所、避難経路の確認」、「食料、生活必需品等の備蓄」、「家族との安否確認方法や集合場所の確認」など災害に備えることが大切です。もしもの時に大切な命を守れるよう、できることから準備を始めましょう。自然災害では「自分のいのちは自分で守る」ことが大原則です。近年、風水害などの自然災害が激甚化するなか、逃げ遅れによる犠牲にならないよう、住民自身による主体的な避難が重要になります。災害発生時に適時適切に避難できるよう、普段からハザードマップなどで地域の危険性を確認し、「いのちを守る行動は何か」を考えておく必要があります。例えば「マイ避難カード」などを作成することにより、自分自身であらかじめ「いつ」「どこに」「どのように」避難するかを決めておき、いざというときの避難行動に役立てることができます。



<ひょうご安全の日公式サイト> <http://19950117hyogo.jp/>

昨日の震災追悼セレモニーより



「語りかける目」1年生道徳より



「震災によりそう」 萩野先生より